

社会福祉法人 梓友会  
平成29年度 法人本部  
事業報告

法人本部

人材開発室

みくら保育園

梓の里

みなとの園

太陽の里

みくらの里

小規模多機能型居宅介護みくらの里

エクレシア南伊豆

## 社会福祉法人梓友会 法人本部 平成29年度 事業報告

### 1. 理事会及び評議員会開催状況並びに承認事項

平成29年4月1日 第29-1回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事6名、監事1名

承認事項：・社会福祉法人梓友会 理事長の選任

平成29年5月9日 第29-2回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事6名、監事1名

承認事項：・みくらの里保育園運営規程の一部改訂  
・施設長等の人事異動について

平成29年6月9日 第29-3回理事会

開催場所：下田東急ホテル

出席：理事6名、監事1名

承認事項：・理事、監事及び会計監査人の推薦  
・平成28年度事業報告（全7拠点）  
・平成28年度決算報告及び監事監査報告  
・給与規程の一部改訂  
・定時評議員会の招集事項

平成29年6月23日 第29-1回定時評議員会

開催場所：下田東急ホテル

出席：評議員6名、監事2名、理事2名（川島理事長、江渡理事）

承認事項：・理事、監事及び会計監査人の推薦  
・平成28年度事業報告（全7拠点）  
・平成28年度決算報告及び承認  
・理事、監事の報酬等の決議

平成29年6月23日 第29-4回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事6名、監事2名

承認事項：・理事長の選任  
・会計監査人報酬の決定

平成 29 年 10 月 30 日 第 29-5 回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事 5 名、監事 2 名

承認事項：・エクレシア南伊豆建設工事変更請負契約書の締結

- ・平成 29 年度第一次補正予算（全 7 拠点）
- ・デイサービスセンターみなとの園（介護予防）運営規程の一部改訂
- ・デイサービスセンター太陽の里（介護予防）運営規程の一部改訂
- ・非常勤職員給与規程の一部改訂
- ・育児・介護休業等に関する規程の一部改訂
- ・理事長の職務執行状況の報告

平成 29 年 11 月 28 日 第 29-6 回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事 6 名、監事 2 名

承認事項：・介護老人福祉施設エクレシア南伊豆創設における初度調弁の契約締結 3 件

- ・介護老人福祉施設エクレシア南伊豆創設にかかわる福祉医療機構（設置・整備資金借入金）の金銭消費貸借契約締結
- ・介護老人福祉施設みくらの里創設にかかわる福祉医療機構（設置・整備資金借入金）の金銭消費貸借契約の条件変更

平成 30 年 1 月 12 日 第 29-7 回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事 6 名、監事 1 名

承認事項：・介護老人福祉施設エクレシア南伊豆 施設長の選任

平成 30 年 2 月 9 日 第 29-8 回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事 5 名、監事 1 名

承認事項：・介護老人福祉施設エクレシア南伊豆他 運営規程の制定

- ・社会福祉法人梓友会 経理規程の一部改訂

平成 30 年 3 月 26 日 第 29-9 回理事会

開催場所：介護老人福祉施設みくらの里

出席：理事 6 名、監事 2 名

承認事項：・平成 29 年度最終補正予算

- ・平成 30 年度事業計画
- ・平成 30 年度当初予算
- ・理事長の職務執行状況の報告
- ・就業規則の一部改訂

- ・利用者負担金等過年度未納額の徴収不能額の計上
- ・総合事業運営規程の制定

## 2. ISOの推進

6～10月 内部監査計画に基づき内部監査を実施

11/29～12/1 第10回サーベイランス審査（審査員：日本検査社-1長谷部・津島氏）

## 3. 施設長会議

毎月上旬に開催（年間12回、四半期に1回課長補佐以上が出席）

議 題 数値目標達成状況・運営状況報告（職員配置状況、利用者状況等）、評価・不適合報告、マネジメントレビュー指示事項対応状況報告、部門目標達成状況報告他  
マネジメントレビューの実施（5月15日）

## 4. 経営調整会議

毎月上旬に開催（年間12回）

議 題 月次予算実績対比表の報告と分析（クロスボーダー鈴木先生同席）

## 5. 労使協議会の実施

6/5 第1回労使協議会 平成29年度夏季一時金、処遇改善交付加算金

11/9 第2回労使協議会 平成29年度冬季一時金、処遇改善交付加算金

3/2 第3回労使協議会 平成30年度定期昇給、平成30年度一時金

## 6. 福祉関係団体の各種セミナー参加

全国社会福祉施設経営者協議会、日本経営者団体連盟・社会福祉懇談会研修委員会、  
全国社会福祉協議会、全国老人福祉施設協議会、東京経営者協会・新進経営者会、  
日本介護経営学会、日本老年社会学会、つしま医療福祉研究財団

## 7. 静岡県社会福祉法人経営者協議会 東部地区経営協 事務局の運営

6/7 総会・合同研修会

演 題：「2025年に向けた社会福祉法人の経営課題について」

講 師：淑徳大学総合福祉学部 准教授 結城 康博氏

会 場：ホテル沼津キャッスル

参加者：120名

### 3/6 事務研修会

講演Ⅰ：「静岡県災害派遣福祉チーム（静岡 DCAT）について」

講師：静岡県社会福祉協議会 福祉企画部経営支援課

主任 松浦史紀氏

講演Ⅱ：「速報版！わかりやすい！平成 30 年度介護報酬改定と算定要件の全解説と対策」

講師：小濱介護経営事務所 代表 小濱道博氏

会場：プラザヴェルデ

参加者：81 名

### 3/7 静岡県福祉職合同入職式

会場：ホテル沼津キャッスル

参加者：東部地区の福祉職新規採用者（新卒者）66 名

**社会福祉法人梓友会法人本部**  
**平成29年度 事業報告**

平成29年度 事業報告	進捗状況
<p>1.社会福祉法人制度改革に 対応した経営 (1) 公共性・公益性の担保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡県南伊豆町と東京都杉並区の両自治体間連携による特養整備を推進し、3月5日に開設を迎えることが出来た。現在、40名強の方々が入居されており、開設後6か月での満床に向け、入居者の受入を進めている。平成30年度は、両自治体との連携事業を深化させ、本事業の更なる推進を行っている。</li> <li>・静岡県社協及び賀茂地域社協と生活困窮者支援に係る連携・協働についての協定を締結したことを基礎として、圏域での取り組みを進めるために、静岡県社協を中心とした協議を進めた。また、法人としては、生活困窮者就労訓練事業所としての申請を行い、静岡県より事業者指定を受けた。</li> </ul>
<p>(2) 社会福祉法人制度改革への 対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人制度改革に対応した新たな理事会、評議員会および会計監査人による監査を実施し、法人のガバナンス強化と財務規律の強化に努めた。また、昨年同様、財務諸表をインターネット上に公開するとともに、各施設発行の広報誌に差し込み公開した。</li> </ul>
<p>(3) 内部統制の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設において、施設内研修等などを通じてコンプライアンスにかかわる周知を行った。特に法人本部では、年間を通して会計監査人による監査、会計事務所（イワサキ経営）による月次監査、および外部コンサルによる施設事務の定期巡回を実施し、内部統制の強化に努めた。</li> </ul>
<p>(4) 法人マネジメントの徹底</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回、施設長会議・経営調整会議を開催し、各拠点の計数管理及び評価・不適合項目について管理を実施した。あわせて、年間スケジュールに基づいた、内部監査とマネジメントレビューを行いISO9001による品質マネジメントシステムの管理・徹底を図った。特に、ISOではJICQAによる第10回サーベイランス審査（12月）にて登録が維持されている。</li> <li>また、外部監査では新たに会計監査人による監査を受け、経営の透明性を担保している。</li> </ul>
<p>2. 人材確保・定着・育成に 向けた取り組みの実施 (1) 情報戦略の見直しと活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来からの広報誌、ホームページに加えて、SNS（Twitter、Facebook、アメブロ）を活用し、多世代への情報提供を実施した。</li> <li>また、就職希望者に対し、法人の業務内容、介護の魅力、職場の雰囲気や先輩職員の声などを伝えるために、新たにリーフレットを作成し、採用活動で配布した。</li> <li>・今年度は、新施設オープンに向け、圏域（1市5町）内での採用活動を強化するために、ポスティング（郵便による全戸配布）によ</li> </ul>

	<p>る採用広告活動（5回）を行った。あわせて、年間を通じて就職説明会や相談会を採用活動を展開した結果、本活動により合計37名の職員を採用することが出来た。</p>
<p>（2）企業主導型保育事業の実施</p>	<p>・平成29年4月より、職員の福利厚生並びに職員の採用競争力強化を主な目的とし、企業主導型保育事業の運営を開始した。 本事業は公益財団法人児童育成協会からの運営費助成を受けながらの運営となるが、初年度から運営費助成を受けることが出来た。 また、平成29年度末において、定員19名に対し12名の利用があり、初年度としては当初目的を達成することが出来た。 平成30年度についても、新規入職者からの利用に関する問い合わせもあり、引き続き、子育て世代の職員ニーズへの対応を実施していきたい。</p>
<p>（3）国際交流を活かした連携</p>	<p>・今後、介護分野における外国人労働者の受入は必須であり、その準備段階としての位置づけであること、また、平成30年度は法人設立30周年の年となるため、海外との人的交流を深める記念事業の一環として、台湾・台北市内の看護系学部の学生（2大学）を対象とした交流事業のプレゼンテーションを実施した。 また、平成30年9月に交流事業を実施することを目標に、参加者の募集・選考を行う予定であり、現在、実施に向けた準備を推進中である。</p>
<p>3.経営分析による財務強化の実施 （1）経営企画室の立ち上げ</p>	<p>・昨年度は新施設の開設、職員採用、並びに30周年記念事業の事前準備を目的に外部コンサルの協力を得ながら、経営企画室を立ち上げた。 月に一度の頻度で定例会議、必要に応じて随時の会議を開催し、新施設の立ち上げを遅延なく実施することが出来た。また、介護報酬改定に合わせた各種加算等の一部見直しを図り、経営基盤の安定化に努めた。</p>
<p>（2）各拠点施設の適正な数値目標管理</p>	<p>・既存施設の数値目標を明確化し、月次施設長会議にて進捗管理を行った。 また、介護報酬における新たな加算の取得のために、本部主導で取り組みを行い、特養においてはみなとの園とみくらの里において経口維持加算の算定、また、通所介護においては全事業所で個別機能訓練加算の算定を開始（一部、準備中）し、財務規律の強化に寄与した。</p>
<p>（3）全職員による経費削減の共通理解</p>	<p>・昨年に引き続き、高額支出（10万円以上）のデータを毎月、法人本部から各施設に開示した。また、各施設においては、水道光熱費の前年対比データを職員会議等で開示・管理すること、また、物品購入において削減アイテムを抽出し法人全体で経費削減を推進した。</p>

平成29年度 教育研修実績報告

H30.4.17

	内 容	詳 細
新 任 職 員 研 修	① 新任職員オリエンテーション	3月20日～21日 (10期生7名) *研修実施時点での内定者は7名
	② 新任職員技術研修	4月2日～5日 (10期生8名)
	③ OJT教育	各所属施設にて (8名)
	④ 9期生フォローアップ研修Ⅰ 9期生フォローアップ研修Ⅱ 9期生フォローアップ研修Ⅲ 8期生フォローアップ研修(2年目研修)	5月30日 (3名) 8月24日・25日 (3名) 11月22日 (3名) 11月21日 (5名)
	⑤ スキルチェック	各施設にて
	⑥ 法人オリエンテーション	第1回 4月19日 (12名) 第2回 8月28日 (14名) 第3回 12月19日 (16名) 第4回 2月27日 (17名)
内 部 研 修 等	① 施設内研修(職員対象)  ・施設企画1「平成29年度基本方針」 「平成29年度基本方針・事業計画について」 「リスクマネジメントについて」 「嚙下困難者への対応」 「平成29年度基本方針について」「法令遵守」 「エクレシア南伊豆について」  ・施設企画2「食中毒・感染症について」 「衛生管理と食中毒予防の必要性」 「平成29年度基本方針」 「倫理及び法令遵守」「交通安全講話」 「食中毒・感染症対策」「認知症について」  ・施設企画3「感染症について」 「感染症・食中毒予防について」 「感染症・食中毒予防」「経費削減についての報告」 「感染症について」	梓の里 4月26日 みなとの園 5月 2日  太陽の里 4月27日 みくらの里 5月24日  梓の里 7月28日 みなとの園 7月11日 太陽の里 5月25日 みくらの里 7月 7日  梓の里 11月 7日 みなとの園 11月22日 太陽の里 6月22日 みくらの里 10月23日・24日



	<p>・本部企画1「次期報酬改定について」 *4施設合同実施 講師:上智大学 総合人間科学部社会福祉学科 准教授 藤井 賢一郎 氏</p> <p>・本部企画2「合同発表会」は新施設準備等に伴い 今年度は開催中止</p>	<p>梓 の 里      9月14日 みなとの園      //</p> <p>太 陽 の 里      //</p> <p>みくらの里      //</p>
	<p>② 各施設及び各部署での勉強会</p>	<p>各施設・各部署にて実施</p>
	<p>③ 育成担当者研修</p>	<p>8月25日(金) 各施設 7名</p>
	<p>④ 介護福祉士受験対策講座による資格取得の支援</p>	<p>模 試：11月18日 受講生： 6名 *今年度は短期集中講座の受講希望者が5名以下 だったため、模試のみ実施</p>
	<p>⑤ 内定者フォローアップ研修</p>	<p>12月 2日(土) (平成30年新卒入職予定者6名) *研修実施時点での内定者6名</p>
	<p>訪問介護員研修(静岡県委託事業)</p>	<p>日 程：平成30年1月27日・28日 2月10日(3日間) 受講生：14名受講中10名修了</p>
<p>地 域 福 祉 活 動 他</p>	<p>出張勉強会(学校訪問)</p> <p>・介護の魅力発見セミナー(学校訪問) 静岡県社会福祉人材センターより依頼</p> <p>・就職ガイダンス</p>	<p>10月 4日 稲梓中学校2年(20名)</p> <p>7月20日 河津町立南小学校(37名) 11月27日 河津町立西小学校(10名)</p> <p>12月18日 下田高校南伊豆分校(2名)</p>

# 企業主導型保育事業みくら保育園

## 平成29年度 事業報告

平成29年度事業計画	進捗状況
1.社会福祉法人制度改革に対応した経営	<p>平成29年4月1日より企業主導型保育事業を開始。定員は19名、当初の利用開始は8名でスタート。平成30年3月末の利用者は12名となる。職員の勤務状況に合わせた保育サービスを提供し、子育て世代の就労に寄与することができた。</p> <p>小規模保育園の良さを生かし、散歩に出掛け四季折々を感じられる自然体験を大切に、園外保育を楽しんだ。</p> <p>また、異年齢保育の中で、学び合い・育ち合いを見守りながら、協調性・社会性が育む様な保育環境を整えていくことができた。</p> <p>多世代交流として、施設のお年寄りと行事やイベントを通じて交流することができた。</p> <p>個々に合わせた個別指導計画を立て、職員間で共通理解を図りながら保育に取り組んだ。</p>
2.人材確保・定着・育成に向けた取り組みの実施	<p>エクレスシア南伊豆創設による人材確保や、産休後の職員の職場復帰に寄与することができた。</p> <p>正職員や週30時間以上勤務の非常勤職員の子供の保育園利用料については、福利厚生の一環として無料とし、子育て世代の負担減少に寄与した。</p> <p>今年度は、みくら保育園の利用者は12名となり、梓友会に入職することにより利用した利用者数は5名となった。</p>
3.各拠点施設の経営維持と財務強化	<p>平成28年4月に成立した改正こども・子育て支援法による「企業主導型保育事業」の助成制度を活用し、保育事業の安定的な運営をおこなうことができた。</p> <p>また、児童育成協会による実地監査や、静岡県認可外保育所の実地指導において、問題となる事項はなく、適正に運営をおこなうことができた。</p>

**介護老人福祉施設梓の里  
平成 29 年度 事業報告**

平成 29 年度 事業報告	進捗状況
<p>1. 社会福祉法人制度改革に対応した経営 (1) ホール稲穂の供用推進 (地域貢献)</p>	<p>○常時、季節ごとの写真や地域の方々の作品などを展示し、面会ご来訪の方々やデイご利用者の方々に楽しんで頂いています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣住民の方々を主体に 5 月 26 日体験デイ(23 名)や 11 月 11 日感染症対策講座(24 名)を開催しましたが、参加者が多く別室利用となりました。</li> <li>・一方、7 月 15 日の公開講座では 94 名の来訪者の方々へ、喫茶スペースとして開放し好評を博しました。また、8 月 7～10 日には夏季児童学習支援事業として、児童・講師計 28 名の方々に利用頂きました。</li> <li>・また、デッドスペースとなっていた屋外中庭に、10 月 31 日にご利用者のご家族より、日展入選作塑像をご寄贈頂き、施設環境の美化向上に寄与することとなりました。</li> <li>・10 月 12 日～11 月 1 日にかけて、稲穂小、稲穂中、稲生沢中の児童生徒 66 名の受入を行い、ホール稲穂を学習拠点とし、ご利用者の皆様との触れ合いを通じて、高齢者施設への理解を深めて頂きました。</li> </ul>
<p>(2) 地域防災拠点機能の強化 (地域貢献)</p>	<p>○当該稲穂地区において、一昨年度に続き、9 月 28 日にも集中豪雨による避難準備情報が発令されました。施設周辺には土砂災害特別警戒地域が点在するものの、施設自体は増水被害を受けにくい立地にあり、周辺住民の方々にとっても防災拠点となりえることから、下田市防災安全課防災係からの依頼を受け、施設の一部を災害備蓄品の備蓄場所として提供することと致しました。6 月 12 日に 1000 食、3 月 28 日に追加 1000 食の受入を行い、11 月 8 日実施の防災訓練に参加頂いた加増野地区役員の方々に現物確認をして頂きました。施設分 2000 食(140 名 5 日分)の備蓄に加え、状況に応じて相互融通することも可能となり、施設、地域双方にとってもメリットのある対応となりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・また、9 月 4,5 日に静岡 DCAT1 期生養成研修に職員を派遣し、隊員登録を行い、1 月 26 日には DCAT が推奨する災害時移送用具 4 点の保管拠点としての指定をうけ、貸与を頂きました。来期は、当該用具の使用法を職員のみならず、地域の方々へも周知していくことと致します。</li> <li>・また、災害時の職員間通知の方法として、現行の電話連絡網に加えて、静岡 DCAT でも使用されている災害時一斉通報メールの導入を図り、即応体制の強化を図りました。今後、公用携帯をスマートホンに切り替えて、一斉通報の機動性をさらに高めていく予定です。</li> </ul>

平成29年度 事業報告	進捗状況
(3) 困難事例への取組	<p>○施設相談員、ケアマネにより、近年における困難ケースへの取組事例をまとめ、2事例については8月4日高齢者福祉研究大会、3例目は3月28日のスタッフ会議において以下の通り内容を開示しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性腎不全、介護放棄、生活保護の69才女性の受入</li> <li>・糖尿病、認知症徘徊、独居の77才男性の受入と看取り対応</li> <li>・リウマチ、高血圧、心筋梗塞のある85才女性入居者の生活支援</li> </ul> <p>今後とも適時に情報の開示と共有を進めていくことと致します。</p>
<p>2. 人材確保・定着・育成に向けた取り組みの実施</p> <p>(1) 職場環境の把握と改善</p>	<p>○28年度のストレスチェックの結果、平均スコア100に対し、当施設介護部門では137と高いことが判明し、各リーダーにヒヤリングを行ったところ、特に夜勤者の不足による業務負荷がネックとなっていることが明らかとなりました。</p> <p>そこで、ISO業務手順書に準拠したスキルチェックリストを活用し、新入職員等、夜勤未就業職員の育成に注力した結果、2名の夜勤就業が可能となり、夜勤者不足解消の一助となりました。</p>
(2) 人材の確保、育成	<p>○特養、デイの中堅職員3名を認知症実践者研修に派遣、特養職員2名を喀痰吸引研修、感染症対応研修に派遣し、その成果をケアスタッフ会議(12月20日、1月18日)にて他の職員へ還元しました。</p> <p>・既存職員の教育は順調に推移しましたが、一方で、体調不良、家庭事情、転職/転出により13名の職員が施設から離れました。加えて30年度も既に複数名の転出、休職が予定されており、4月に介護職員、栄養士の新規配属を頂きましたが、厳しい状況下で30年度を始動することとなりました。</p>
<p>3. 法人財務強化についての取り組み</p> <p>(1) 稼働状況の開示</p>	<p>○月次の部門別稼働状況(年度比較、施設比較)を各部門責任者に対して開示し、法人内における位置づけを共有することで、稼働率や収支に関する意識付けを図りました。</p> <p>特養における、入居希望者の減少と重度化、また、在宅顧客の約3割が法人外事業所への付け替えとなる逆風下においても、他施設に比して遜色のない稼働を維持するとともに、収支差額ベースでは、法人全体の約1/2の新規キャッシュフローを創出することができました。特にデイについては月平均利用者数が514名となりました。</p> <p>また、介護、看護職員間においても、現状の環境変化や従前にもまして、ショート利用者の獲得が生命線となりつつあることなどを良く理解して頂き、職員間の連携、協力を得ることができました。</p>

平成29年度 事業報告	進捗状況
(2) ボトルネック設備の改修 (業務の持続性強化)	<p>○29年度は新型特養創設等に伴う予算の逼迫から、高額改修についてはすべて次年度繰延とせざるを得ない状況となりました。その中でも、入浴機器・入浴場所の改修については、ご利用者サービスに直結する課題であることから先行着手とさせて頂きました。結果として、入浴動線の整理と入浴キャパシティの増加といった大きなメリットを得ることが出来ました。</p> <p>一方、施設運営上の基幹装備である電設、井水関連の機器が使用年限を大きく超過しており、年次点検においても改修指摘がなされるなど、30年度以降は基幹装備の更新に着手せざるを得ない状況下にあります。</p>
(3) 感染症対応強化 (業務の持続性強化)	<p>○感染症予防研修を10月18日に実施し、職員の予防意識と技術レベルの向上を図る一方、賀茂保健所管内の感染所発生動向を注視しながら感染症等対策委員会を適時開催し、11月には関係者への面会制限への協力をお願いしました。同時に、関係業者に対しても感染予防の徹底を周知しました。</p> <p>しかし、1月末から3月初旬の間、職員が発生源と目される施設内感染を3回発症し、延べご利用者8名、職員3名の感染を発症しました。幸い、ご利用者に深刻な影響を与えることなく、発症ユニット内での終息に成功しました。これには、予防薬の早期投与と隔離措置の徹底、職員の対応スキルの向上に加えて、大型加湿器の導入効果もあったと推測されます。</p> <p>職員が発生源となったのは誤算でしたが、職員によっては月間7回程の夜勤を担うなど、勤務疲労による体調低下がその遠因となったことも否めないと考えます。</p> <p>従来型多床室の当施設にとって、感染症は自然災害に次ぐリスク事象であることを再認識し、勤務環境の改善に努めるとともに、次年度も予防対策を継続することと致します。</p>

**介護老人福祉施設みなとの園**  
**平成29年度 事業報告**

平成29年度 事業計画	進捗状況
<p>1.社会福祉法人制度改革に対応した経営</p> <p>(1)コンプライアンス強化の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月2日に職業倫理等についての研修会を開催した。また、各種会議、防災訓練等で事故防止、感染症予防、防災意識等の向上に努めた。各部門の目標達成率は、栄養(90%)、事務(20%)部門以外は100%の達成率だった。</li> </ul>
<p>(2)社会貢献・地域貢献活動の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南伊豆町社会福祉協議会が生活困窮者自立支援事業の一環として開催した「子ども学習アシスト教室」の会場を、夏季12日間、冬季4日間提供した。</li> <li>・今年度の傾聴ボランティア活動は、南伊豆町社協と共催で月1回のペースで実施した。また、5月24日に他の傾聴ボランティア団体との交流会を実施。9月23日30日には外部の講師を招き、ボランティア皆様のスキルアップを目的とした講座を開催した。</li> </ul>
<p>(3)社会福祉法人の公益性の担保と存在意義</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者を中心として、エクレシア南伊豆整備に関する各種会議等に積極的に参加した。</li> <li>・H29年4月から9月まで南伊豆町との職員交流事業(相談員1名の職員交流)を実施した。</li> </ul>
<p>2.人材確保・定着・育成に向けた取り組みの実施</p> <p>(1)職員研修制度の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険予知訓練(KYT)の専門研修を施設相談員が受講し、施設内で介護職員を対象とした研修会及び勉強会を実施した。</li> <li>・介護主任、ユニットリーダーが講師となり、新人、中堅職員を対象にOJT及びスキルチェックシートを活用した教育研修を実施した。また、認知症ケアに対する研修も、ケアスタッフ会議等を活用し、随時勉強会を実施した。</li> </ul>
<p>(2)ICTやロボット技術の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デイサービスセンターでヒト型ロボット『Pepper』を導入し、体操プログラムなどを実施した。次年度はより積極的にロボット活用を図るため、6月にミッケルアート回想療法の研修会に参加して本格的な導入を図っていきたい。</li> <li>・介護主任がエクレシア南伊豆で実施した電子介護記録システムの研修会に参加した。</li> </ul>
<p>(3)エクレシア南伊豆の開設に向けた職員採用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人が実施している「職員紹介キャンペーン」を毎月のリーダー職員会議等で説明し人材発掘に向けた取り組みを実施したが、紹介し採用に繋がった事例は1名にとどまった。</li> </ul>

平成29年度 事業計画	進捗状況
3.法人財務強化についての 取り組み (1)加算取得等の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 通所介護の「個別機能訓練加算」をH29年11月から算定し、現在月額9万円弱の収益増になっている。次年度も引き続き算定対象者を増やし収益増につなげていきたい。</li> <li>• 介護老人福祉施設の「経口維持加算」はH29年4月から算定し、現在月額10万円程度収益増になっている。次年度も引き続き算定対象者を増やし収益増につなげていきたい。</li> </ul>
(2)数値目標の管理	<p>※H29年度数値目標の達成状況（実績）は以下の通りとなった。</p> <p>目標値→実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 特養：稼働率 99.5%→97.8%</li> <li>• 短期：稼働率 92.5%→89.8%</li> <li>• 通所：利用者 420名/月→450名/月</li> <li>• 訪問：収入 220万円/月→202万円/月</li> </ul> <p>通所以外は目標を達成できなかったため、要因を分析し次年度は目標を達成できるよう改善していきたい。</p>
(3)全職員による経費節減の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 事務部門にて目標を設定するとともに、職員に対し電気、ガス、水道の使用実績を毎月のリーダー職員会議等で報告し経費節減に努めた。ガス使用量は対前年比で削減されたが、電気使用量はエアコン等設備の関係で前年比7.3%増加した。次年度も引き続き同様の取り組みを実施し経費節減に努めていきたい。</li> </ul>

## 介護老人福祉施設太陽の里 平成29年度 事業報告

平成29年度 事業計画	進捗状況
<b>1.社会福祉法人制度改革に対応した経営</b> (1) 事業運営の透明性を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌においては計画通りの実行となる。また、10月に太陽の里まつり、9月にご家族交流会の実施、そして、8月より週1回のペースでブログにご利用者の生活状況や行事や地域貢献活動等を掲載し、地域への情報発信を行う事で施設は地域の社会資源であることの位置づけとなっている。</li> </ul>
(2) 地域に公益的取り組みを実施する責務を果たす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者は地域行事に参加し地域住民と交流を図り、職員は地域貢献として九州豪雨水害被災者への募金活動や献血また、講師派遣を行うとともに、事業所連絡会の開催においては、地域の福祉・介護ニーズの情報交換を行った。また、ボランティア、民生委員等の交流の中で介護の相談等を受け入れ、在宅サービスや入居利用につながり地域の安心となっている。</li> <li>・西伊豆町地域包括支援センターと連携を図り、徘徊等、ご家族や地域の対応困難なご利用者を積極的に受け入れる姿勢が事業所や地域の評価となっている。</li> </ul>
(3) 複雑かつ困難な福祉ニーズに対応させるべく公益な試みを実行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護者の入院により居宅ケアマネやかかりつけ医と連携の中で短期ご利用者1名の看取り介護を実施し、ご家族の安心となっている。今後も、かかりつけ医と連携し独居や老老介護者の看取り介護の受け入れを積極的に行っていく。 経管栄養のご利用者対応はなかったが、看取り介護対応に伴う喀痰吸引のご利用者は増大しているとともに、医療ニーズのあるご利用者の入居が多くなっている背景を踏まえ、第二号研修受講を計画的に行い、スタッフ全員の第二号研修修了者を目指したい。</li> </ul>
<b>2.人材確保・定着・育成に向けた取り組みの実施</b> (1) 質・量の両面からの人材確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域会合参加時の積極的な情報収集、スタッフからの紹介、エキレシア就職説明会及び太陽の里独自の募集広告等により障害雇用も含め7名の入職となる。今後も太陽の里独自の募集を継続していく。</li> </ul>
(2) 労働力の質と量の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアスタッフの平均勤続年数が約7年、介護福祉士有資格者が22名中15名いる中で、ケアスタッフが責任者として開催する各会議で勉強会を重ねることで知識・技術の向上及びサービスの質向上となり、介護事故の大きな減少となっているとともに、7名の入職によりほぼ適正な人員配置により残業の軽減と有給休暇取得が可能となっている。また、部門の責任者が都度面接を行い、思いを吐き出す事で解決の糸口となっている。</li> </ul>
<b>3.法人財務強化についての取り組み</b> (1) 適正かつ公正な予算管理と支出管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特養では1年間で18名の死亡退所があった中で98.4%、短期は特養の空床に伴い入居したご利用者が7名いる中で102.9%と、適正なべ</li> </ul>



平成29年度 事業計画	進捗状況																		
	<p>ットコントロールと各事業所への営業活動を行った結果、特養・短期で100%以上の稼働となる。</p> <p>通所においては本部の助言を得ながら営業活を行うも一か月延べ利用人数が平均438名と、目標稼働まで至らないため、継続して営業活動を行っていき目標稼働を目指したい。</p>																		
(2) 全職員における経費削減の共通理解	<p>・経費削減については事務の部門目標に設定した事もあり、光熱費や消耗品の使用状況を職員が一同する施設内研修後にて開示する事で意識づけになっており、施設内の巡回時は必要でない場所のつけばなしは殆どないようにスタッフの経費削減の意識は高い。電気使用量は削減しているが、料金単価の変動によりプラスとなっている。スタッフの意識づけの継続のため平成30年度も事務の部門目標に設定していく。</p> <p>電気使用料</p> <table data-bbox="534 705 1149 851"> <tr> <td>29年度</td> <td>221.038 kwh</td> <td>-3,924 kwh</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>224.962kwh</td> <td>+5,000 kwh</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>219.962kwh</td> <td></td> </tr> </table> <p>電気金額</p> <table data-bbox="534 907 1125 1030"> <tr> <td>29年度</td> <td>4,206,439 円</td> <td>+281,388 円</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>3,925,051 円</td> <td>+519,550 円</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>4,444,601 円</td> <td></td> </tr> </table> <p>消耗物品については在庫表を作成し週1回確認した事により整理整頓ができ、必要以上の物品を抱えることもなく、また、適正な使用方法もそれぞれの担当で検討を行っている。</p> <p>備品についても、車椅子のタイヤ保全のために空気圧を適切にする等の実行を意識しており、急な修繕等の軽減となっている。</p>	29年度	221.038 kwh	-3,924 kwh	28年度	224.962kwh	+5,000 kwh	27年度	219.962kwh		29年度	4,206,439 円	+281,388 円	28年度	3,925,051 円	+519,550 円	27年度	4,444,601 円	
29年度	221.038 kwh	-3,924 kwh																	
28年度	224.962kwh	+5,000 kwh																	
27年度	219.962kwh																		
29年度	4,206,439 円	+281,388 円																	
28年度	3,925,051 円	+519,550 円																	
27年度	4,444,601 円																		

**介護老人福祉施設みくらの里  
平成29年度 事業報告**

平成29年度 事業計画	進 捗 状 況
<p>1.社会福祉法人制度改革に 対応した経営 (1) 公益性の更なる追求</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人の公益性を担保することを目的とした取組みの一つとして、平成29年10月15日に第11回みくらの里祭りを開催し、800名超の地域の方にお越しいただいた。</li> <li>また、小規模みくらの里においても、みくらの里職員と協力して「このぼり会」を開催し、吉佐美、大賀茂の地元地区の約100名の方に参加いただいた。砂利</li> </ul>
<p>(2) 社会・地域への貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、平成30年1月にデイサービスにおいて、ご家族見学会を開催し、21名の方に参加していただいた。</li> <li>また、特養においては、栄養部門が主体となり、入居者ご家族の希望者を対象にした食事の試食会を実施した。これにより、日頃ご利用者の食事提供の様子を把握していただくと共に、施設サービスに対する理解促進を図った。</li> </ul>
<p>(3) コンプライアンスの 強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内研修として、法令遵守・職業倫理について研修会を開催した。また、介護事故防止、虐待防止、および感染症予防対策については、それぞれ各2回ずつ研修会を開催し、コンプライアンス強化に努めた。</li> </ul>
<p>2.人材確保・定着・育成に 向けた取り組みの実施 (1) 質と量の人材確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特養入居者の重度化対応への取組みとして、法人内看護師3名がエンゼルケアの通信講座を受講し、その内容を基に看護職、介護職を対象にした施設内研修会(3回)を開催した。</li> <li>・デイサービスにおいては、ICTを介護サービスに活用するためのモデル的な取組みとして、コミュニケーションロボット(pepper君)による認知症ケア(ミッケルアート)のサービス提供を行った。</li> <li>・特養や短期入所における施設における介護サービスの質を担保するために、以下の各種研修の受講および受け入れを行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 医療的行為への対応として、医行為研修 5名の介護職員が受講し、資格取得</li> <li>② ユニットリーダー研修 3名の介護職員が受講し、資格取得</li> <li>③ 認知症実践者研修(基礎) 3名の介護職員が受講し、研修修了</li> <li>④ ユニットリーダー研修施設として研修生の受け入れ 10名の受講生を受け入れ、研修開催</li> </ul> </li> <li>・介護技術力のチェックとして、新卒者2名に対し、スキルチェック並びにOJTを実施。 また、新規ユニットリーダー2名に対し、アセッサーによるスキルチェックを実施した。</li> </ul>

平成29年度 事業計画	進 捗 状 況
(2) 安心して働きやすい 職場作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーアシストロボット（HAL）による介護支援の試験的導入を行い、その検証結果を静岡県老人施設協議会主催の研究発表大会と賀茂地区での研修会において活用事例の発表を行った。</li> <li>また、本年度は見守り支援ロボットの一つである「眠りスキャン」を2台導入した。このロボットについては、次年度において、効果の検証を行う予定。</li> <li>・介護業務において、業務を細分化することにより、補助的な業務を担う介護補助スタッフを雇用し、介護職員がより充実したケアを目指すことが出来るよう、環境改善を行った。</li> </ul>
(3) 人材育成と研修の 充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、平成30年4月の介護保険制度改正に対する勉強会を居宅、相談、通所及び事務部門においてそれぞれ開催し、理解を深めた。</li> </ul>
3.法人財務強化についての 取組み (1) (仮) エクレシア 南伊豆創設準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エクレシア南伊豆の開設に向けた入居希望者や居宅支援事業者等への周知、並びに入居希望者への事前調査などについて相談員会議を中心としたメンバーにより対応を行った。</li> </ul>
(2) 数値目標の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症による受入制限等は無かったが、骨折での入院や原因不明での長期入院あり入院日数だけで目標での月平均20床以上の空床となった。年間99.2%の達成もできなかった。細部を詰めて次年度は、達成としたい。</li> </ul>
(3) 全職員による経費 節減の共通理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、排泄委員会を中心に、介護用品の適正使用の検討見直しを行った。</li> <li>・みくらの里における整備更新として、平成30年2月に給湯器の交換をおこなった。</li> <li>次年度は、現在、特殊浴槽の故障も頻回に見られているため、他の設備更新と調整を行い、対応していく必要があると考える。</li> </ul>

**小規模多機能型居宅介護 みくらの里**  
**平成29年度 事業報告**

平成29年度 事業計画	進捗状況
1.社会福祉法人制度改革に 対応した経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 運営推進委員を区長・民生委員・地域ボランティア団体・利用者家族・地域有識者・市役所職員にお願いし、6/26・9/26・10/19・11/14・2/13・3/23の計6回運営推進会議を開催し、情報の共有を行った。</li> <li>• 日程の調整がつかず、運営推進委員に参加いただくことができなかったが、事業所自己評価を2/26に職員会議の中で実施、外部評価を3/23の運営推進会議にて実施。 結果については、H30.5 梓友会HPに掲載および下田市に提出。</li> <li>• 地域貢献活動の取組である「健康プラザ」について、6月～11月で計5回開催。下田市の出張講座を利用した「65歳ノートの活用」や「リハビリ体操」・「ヨガ」等の体を使った活動、また「ワワ-アツグ ヌト」での趣味の活動等行った。「大運動会」では、小規模利用者と同じ内容にて、高齢者向けの競技を体感いただき、介護サービスでの機能訓練等を知って頂いた。</li> </ul>
2.人材確保・定着・育成に 向けた取り組みの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 外部研修等の参加について消極的で、個別研修計画のほとんど未達成となってしまった。 非常勤職員については特に、施設内研修の参加についてもなく、日中の事例検討会のみ参加となっている。 この状況を踏まえて、次年度職場内研修を主としたスキルアップにつなげる研修を目標として設定する</li> <li>• 職場内研修として、8/26・11/29に「小規模多機能型の役割」について勉強会を実施。12/15理解度チェックの実施、2/26に現状の自己評価を実施した。 小規模多機能型を十分理解し、小規模多機能型だからできる活動を自らが提案し、実践できるスキルを身につける研修を次年度に展開する予定。</li> </ul>
3.各拠点施設の経営維持と 財務強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 4/1より、サービス提供体制加算Ⅰ（イ）：640単位および、介護職員処遇改善加算Ⅰ：総単位数の7.6%を算定。</li> <li>• 数値目標 登録者27名に対して、平均26名（90.2%）と若干満たなかったが、Max29名になった月もあり、収入でみると前年度比124%となった。 本年度の新規登録者は16名で、紹介先は病院：2名、新規・再契約：10名、みくら居宅：2名、他居宅：2名だった。 終了者は11名（長期入院：2名、死亡：2名、施設入所：6名、認定更新なし：1名）となった。 *施設入所（入所待ちのロングショート利用含む）は、みくら：4名、エクレシア：2名。</li> </ul>

**介護老人福祉施設エクレシア南伊豆  
平成29年度 事業報告**

平成29年度 事業計画	進 捗 状 況
1.社会福祉法人制度改革に 対応した経営 (1)コンプライアンス強化の 取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3月5日に創設し1月に満たない期間であるため、法令遵守、職業倫理等についての研修は、次年度開催する。</li> </ul>
(2)自治体間連携の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エクレシア南伊豆施設見学バスツアーの実施 バスツアー参加者数 21 名</li> <li>・ 杉並区役所内エクレシア南伊豆説明会及び相談会の開催 説明会参加者数 167 名 個別相談会参加者数 46 名</li> </ul>
(3)杉並区からの入居者に 対するリロケーション ダメージの調査・軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リロケーションダメージのダメージ軽減の取組みを次年度に向けて継続する。</li> </ul>
2.人材確保・定着・育成に 向けた取組みの実施 (1)職員研修制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開設時の研修として、2月13日、14日に一般社団法人全国個室ユニット型施設推進協議会の井出明利氏による「ユニットケアについて、高齢者の尊厳を守るケアの実践、高齢者介護・老人ホームの考え方」と題しユニットケア研修を開催した。</li> </ul>
(2)ICT やロボット 技術の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ iPad を購入し、家族とのテレビ電話として、また、杉並区内の有線テレビの視聴ができる体制を整えた。</li> <li>・ ヒト型ロボット『Pepper』の導入については3月に準備し、4月から稼働する予定です。</li> <li>・ 介護記録の電子化のため導入研修を2月20日から23日の間に富士データシステムにより行い、3月5日から導入した。</li> </ul>
3.法人財務強化についての 取組み (1)各事業の計画的な 稼働率管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本年度は特養とデイサービスを開始した。 稼働率は、次のとおりとなった。 特養 17% 通所：26.5% 短期は次年度からサービス開始する。</li> </ul>
(2)経費節減の取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務部門の目標設定は、次年度実施する。</li> </ul>